

江戸園芸ツツジ

ツツジは万葉集にも詠われた日本古来の植物です

たくひれの
鷺坂山の白管自しらつつじ
われにははね
妹に示さむ



山越えて
遠津の浜の石管自いわつつじ
わが来るまでに
含みてあり待て

ツツジは江戸時代到大流行

江戸時代の元禄（1688～1704）の頃、江戸ではツツジが大流行し、参勤交代などを通じて全国に伝えられました。その後海外にも伝わるなどして日本の代表的な園芸植物の一つとして発展してきました。その中心地が現在の東京都豊島区駒込といわれています。

伊勢国、津藩の藤堂家出入りの『露除け』として庭木の世話をしていた伊藤伊兵衛は、藤堂家下屋敷が駒込染井に移転すると伊藤一家も染井に居を構え、代々伊兵衛を名乗り三代目伊藤伊兵衛（三之丞）は江戸随一の園芸家になったといわれています。

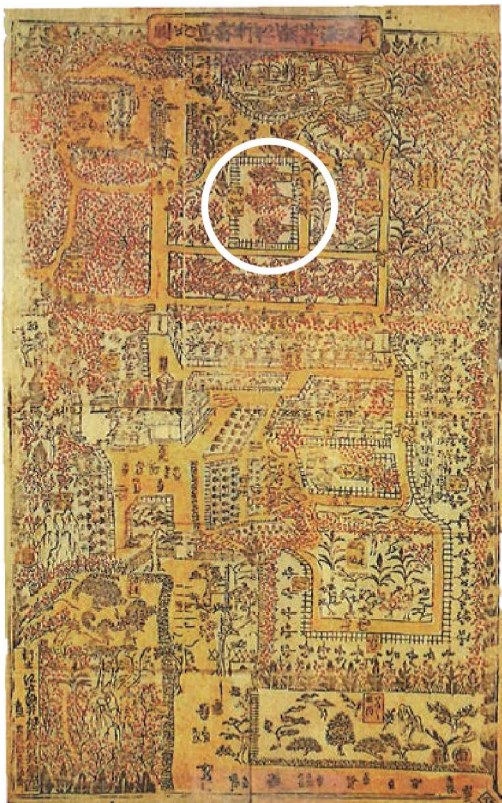
三之丞は自らを『きり嶋屋伊兵衛』と称し元禄5年（1692）ツツジ・サツキ図鑑『錦繡枕』（8頁参照）を発行しています。

伊藤伊兵衛の庭

享保年間（1716～35）、伊藤伊兵衛（政武）の庭を描いた『武江染井翻紅軒霧島乃図（近藤清春）』には、江戸に初めて伝えられた名花『霧島』の原木3本（唐松・無三・面向）が描かれています。（○印参照）

『続江戸砂子温故名跡志（菊岡沾涼）』（享保20年（1735））に『霧島（薩摩霧島産）』は正保年間（1644～1648）に1本が大坂へ渡り、取り木された5本のうち2本（富士山・りんかく麟角）を禁廷（京都御所）に植え、残る3本は明暦2年（1656）、武江染井（伊藤伊兵衛）に下し、これを挿し木などで増やし全国に植えられる、とあります。

ツツジの生産は、元禄の頃は染井が中心でしたが、江戸末期の文化（1804～1818）の頃から、大久保（現在の新宿区）の方が有名になり、明治から大正にかけて盛んに江戸キリシマの苗木が生産されたといわれています。



武江染井翻紅軒霧島乃図

江戸園芸ツツジの紹介

江戸時代に育成されたさまざまなツツジは日本の伝統園芸の中でとりわけ光彩を放ち、360年の間、人々に愛され、庭園や公園、街路樹などに広く利用されてきました。

しかしながら、近年、豊かな品種の継承が困難な状況にあり長い年月の間に姿を消したもののや希少になった品種も見られるようになりました。

江戸から東京に伝えられた貴重な伝統園芸文化を是非、次代に伝えたいものです。

つぎに、『江戸園芸ツツジ』の主なものを紹介いたします。

歴史的名花を楽しんでいただければ幸いです。



本霧島 〈ほんきりしま〉

緋色の一重咲き。花弁はわずかに光沢があり先端が丸みを帯びる。江戸キリシマの代表的品種。当時、霧島と呼ばれ『錦繡枕』のツツジ五花のひとつ。

八重霧島 〈やえきりしま〉

緋色の二重咲き。萼片が完全に花弁化し花付きも良く重厚感がある。花弁はやや丸みを帯びる。

『花壇綱目（水野勝元）』では『二重きりしま』。



東 錦 〈あずまにしき〉

紅色系の一重咲き。淡紅色地絞り花と赤紅色の無地花などが同時に咲き、一段とにぎやかな花。枝毎に様々な花柄が現れる。

紫霧島 〈むらさききりしま〉

淡赤紫色の一重咲き。本霧島によく似た花でやや小型。今ではまれにしか見られないが東北地方にはかなりの古木が残されている。



白霧島 〈しろきりしま〉

白色の一重咲き。純白で花弁の一部に緑色の斑点が見られる。葉や花弁は丸みを帯びる。希少品種。

桜霧島〈さくらきりしま〉

淡紅紫色の一重咲き。花弁の縁や先端にかけ濃い色になる。花はクルマツツジ小町にとってもよく似ている。希少品種。

**紅霧島〈べにきりしま〉**

紅色の一重咲き。花弁の中央にやや濃い色となる溝がある。公園や庭園などに広く利用されるほか、花持ちがよく切り花としても用いられ生産量は多い。

蓑霧島〈みのきりしま〉

緋色の一重・蓑咲き。本霧島の萼片が不完全な形に弁化したもので本霧島の花色、形状を持つ。

蓑とはイネ科の藁（わら）で作られた雨具の一種。

**瑞光〈すいこう〉**

緋色の一重・桔梗咲き。花弁はうねりや波うちが少なく先端でのそりもなくシャープな感じがする。本霧島よりやや大きくなる。

日の出霧島〈ひのできりしま〉

鮮紅紫色の一重咲き。葉や花弁は丸みを帯びる。19世紀中ごろ新宿大久保の日の出園で実生から発見された品種。花付き良く公園などに多く用いられている。



琉球絞 〈りゅうきゅうしほり〉

白色地に紫絞りの一重咲き。紫色の無地花との咲き分けなど、にぎやかな姿にもなる。雄しべは5本より多く、萼片は先端がとがり粘る。

**雪 車 〈ゆきぐるま〉**

純白色の一重咲き。花卉の多くは付け根まで深く切れ込むのが特徴。雄しべには葯がある点がよく似ているモチツツジ系白花車と区別できる。古品種ツツジ。

**白琉球 〈しろりゅうきゅう〉**

純白色の一重咲き。広く普及した品種で庭園や公園、道路にたくさん利用されている。

『錦繡枕』のツツジ五花のひとつ。

**藤万葉 〈ふじまんよう〉**

淡紫色の八重咲き。雄しべが花弁化し、にぎやかながら気品を感じさせ現代に伝えられた希少品種。

『錦繡枕』に「江戸まん重(当時)」について「ふぢ色大りん、まんようなり葉はりゅうきゅうのごとく」とある。

**白万葉 〈しろまんよう〉**

白色の八重咲き。丁字咲きに近い花形。内側で雄しべが花弁化しリング状に見える。

今ではほとんど見られない。



花車〈はなぐるま〉

紅紫色の一重・采（さい）咲き。花弁は付け根まで深く切れ込み先に向けふくらみ、先端では緩やかに反る。萼片は細く粘りがあり葯が見えない。『錦繡枕』に「いろむらさき花中に紫のかのこ有り、葉も大きし」とある。



西行〈さいぎょう〉

紅紫色の一重・采咲き。花弁は付け根まで切れ込み先端はしゃもじ型に膨らみ大変珍しい花形の古品種ツツジ。希少品種。

采咲きとは細長く変化した花弁を采配の「房」に見立てたもので注連縄などにつけて垂らす「紙垂・四手（しで）」と同じ。

青海波〈せいがいは〉

紅紫色の細采咲き。花弁は先端まで線状。葉も萼片も線状で粘る。葉は外側に反り青海波（波を扇状の形に描き表す幾何学模様）のようで江戸期の人々に好まれた古品種ツツジ。希少品種。



胡蝶揃〈こちょうぞろい〉

薄黄緑色の一重咲き。花弁は深く切れ込み、上向きにつく。萼片は花弁の間に長く伸びとがる。葉は褐色の毛が多く、荒くぼてっとした感じ。

駿河万葉〈するがまんよう〉

紅の勝った紅紫色の八重咲き。雄しべが花弁化し、斑点も鮮やかで華やかな姿。花期は長く6月になっても見られる。古品種で今では希少となった。



飛鳥川〈あすかがわ〉

淡紅色地に紫絞りの一重咲き。様々な形の紫絞りが入る。紅や紫無地花と咲き分けあでやかな姿。江戸時代から知られている古品種ツツジ。



ツツジの上手な育て方

場 所

- ・ 日当たり・排水が良く、西日が当たらない場所が最適です。

用 土

- ・ 酸性土壌（PH 4.5～5.5）を好むので赤玉土 5：鹿沼土 2：ピートモス 2：腐葉土 1 の割合を標準にしてください。（石灰はアルカリ性のため与えないでください。）

肥 料

- ・ 開花後の 5、6 月と 9 月に 2～3 回「油かす」を表面に施してください。
- ・ 低濃度の化学肥料（N 8 . P 8 . K 8 以下）も少量なら根元から少しはなして施肥できます。

水やり

- ・ 乾燥が大敵ですので、乾いたら水やりを心掛けて下さい。
- ・ 鉢植えの場合、夏は特に必要ですが、冬の乾燥にも注意してください。
- ・ 株元にはやらずに株の周辺にやるようにしてください。

剪 定

- ・ 来年咲く花芽は今年伸びた新芽の先につくので、6 月までに終わらせるようにしてください。
- ・ 6 月を過ぎて行くと、新しい芽の発育が遅れ花芽が出来ないこともあります。

防 除

- ・ 若い芽やつぼみなどを喰い荒すシンクイムシ等の防除には 6～10 月の間、月に 3 回程度、オルトラン水和剤、スミチオン乳剤、トレボン乳剤、マツグリーン液剤 2 など、3 種類を交互に（同じ薬剤を連続して使わず）散布するようにしてください。

増やす

- ・ さし木で簡単に増やすことができます。
- ・ 6～7 月、開花後に伸びた枝を 10 センチ程度に切って数時間水につけた後、鹿沼土（小粒）などの用土にさして水をやり、風通しの良い日陰で管理し根が十分育ったら定植します。

錦 繡 枕 (きんしゅうまくら)



ツツジ（約170品種）・サツキ（約160品種）が図入りで解説されています。ツツジの部の最初は「花色はこいぐれない、花形が美しく、しかも古木は花の色すぐれてよし」として『霧島』が紹介されています。

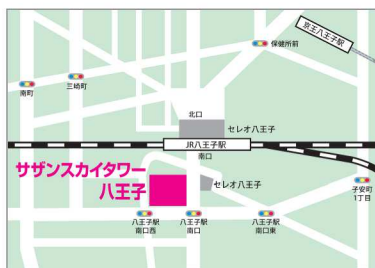
ツツジ五花として『きりしま（紅）』『りゅうきゅう（白）』『いわつつじ（赤）』『しろせんゑ（白八重）』『くろふね（桜色）』、サツキ三花として『まつしま（咲分）』『源氏（うす色）』『さつまぐれない（紅）』を挙げています。

東京都都市づくり公社は

安心で快適な都市環境を実現し

魅力的な東京の発展に貢献します

当公社では《江戸園芸ツツジ》を育成増殖し
まちづくりでの活用や都民への苗木配布等を通して
特色ある緑化と緑の普及啓発に努めています



想像から創造へ、まちづくりのパートナー

Tokyo Urban Planning and Development Corporation



公益財団法人 東京都都市づくり公社
事業企画部公益事業課

〒192-0904 東京都八王子市子安町4丁目7番1号
サザンスカイタワー八王子7階

電話 042-686-1910 FAX 042-686-1909

Eメール midori@toshizukuri.or.jp

ホームページ <http://www.toshizukuri.or.jp>